

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

特254

山 114  
田 忠 正 著

# 産業再建論

大衆自治社發行

236

# 始



序

一切のものは動いてゐる。急速度に動いてゐる。そして如何なる角度から眺めるにせよ、現代のこの急速度展開の尖端が暗示し、要求する處は常にあらゆる意味に於て大衆生活の向上發展に味方するものであることは何人も否定出来ない處である。

しかし乍ら同時に複雑微妙な人間生活の諸關係に於て道が常に單一そのものゝ明快さをもつて截り開かれることを期待するならば、人は屢々事實によつて裏切られることを知らねばならぬ。然り、現代は煩悶の時代である。懊惱の時代である。不安の時代であり、動搖の時代である。この秋に當つて最も強く、最も熱烈に要求されるものは、この時代が暗示する大命題の把握でなければならぬ。それは流水を斷ち截るの鋭さに於て現代そのものゝ認識を獲得するに在る一切の動搖の中に在つて、この認識の把握に成功した人々だけが克く人類生活の向上發展に何物かを寄與することが可能であるのだ。

この小冊子はいかゝる見地に於て爲された私の努力の一結晶に外ならない。それは政府要路の

人々、與黨、野黨廣く政治界の人々、財界、實業界の人々に對する警告的意見書であると同時にあらゆる分野に於ける指導的立場に在る人々に對する認識革命の要請書である。しかし乍ら私の仕事は決して、本冊子の配布によつて充されるものではない。私は更に調査研究を進めて輿論を喚起し、實際運動に於てその目的を實現することを期する。私の眞の目的は多くの匿れたる愛國的熱情に訴へ、この目的達成に邁進するに在る。今や國家非常の秋、決して野人の聲を輕んずるを許さない。私は偏に天下の同憂具眼の士の共鳴と援助とを熱望して已まないのだ。

昭和四年十二月、天寒く晴るゝ日

大衆自治社にて  
著者

目次

**第一 新産業革命の除幕**.....一

一 緊縮政策の積極的展開.....一

二 産業合理化の侵入.....二

三 國際經濟と日本.....四

四 國防と國富.....五

**第二 アメリカの繁榮經濟**.....七

一 アメリカ繁榮の由來.....七

二 その産業合理化運動.....一〇

三 經濟革命の自働的達成.....一一

四 アメリカ魂の正體.....一三

**第三 日本産業の考衰**.....一四

一 日米經濟力の對照.....一四

二 國內的事情の行詰……………一五

三 全面的失業文明……………一七

四 産業老の根本原因……………一九

五 保護政策の破産……………二二

六 資金の富豪集中……………二三

七 政治の浪費化……………二四

八 支那問題の眞意義……………二七

**第四 産業再建論……………二九**

一 認識革命の熱求……………二九

二 資本家利得の低減……………三一

三 政治の合理化……………三四

四 創設的大企業計劃……………三六

五 企業不安の一掃……………四一

六 結語……………四三

# 産業再建論

山田忠正著

## 第一、新産業革命の除幕

### 一 緊縮政策の積極的展開

金解禁は、日本に於ける産業革命の除幕である。鎖國經濟の溫室内に永き惰眠を貪つてゐたわが産業界は、嵐しの如く、海嘯の如き、かの巨大なるアメリカ繁榮經濟の日本侵入によつて、いまやその銷國的堤防は決潰され、溫室のドアも天井も破壊された。アメリカ繁榮經濟の襲來——稍もすれば無産階級を生殺しにせんとする村正のやうな、産業合理化運動の全日本的席捲によつて茲に新らしい産業革命の時代が展開された。

アメリカの繁榮經濟を産んだのは、言ふまでもなく産業合理化に在つた。その産業合理化の

日本侵入は明かに第二の黒船に値する。第一の黒船は幸にも善果を結んで、日本現在の文明を産み落した。けれども、第二の黒船であるこの産業合理化は、果して善となるか、悪となるかこの村正は使ひ手次第でどうなるか判らない。この魔の黒船、この恐ろしい黒船の襲來に對して、日本は果して如何なる陣容を立て、これに備へんとしつゝあるか。

政府は緊縮政策の續行を聲明して居るが、解禁後の新産業革命の動力たる、この産業合理化の大砲の前に、單なる緊縮政策、單なる消費節約の武器を以て臨む如きは、恰も村田銃又はチヨン鬮時代の弓矢を以て應戦することに外ならない。即ち金解禁は、日本に於ける産業革命の除幕であり、或は産業革命の分曉であつて、緊縮政策の如きは日、三竿に及んでの幽鬼である。最早緊縮政策は茲に積極的に展開し、吾等は一路産業再建に向つて邁進しなければならぬ時に際會した。

## 二 産業合理化の侵入

しかし、金解禁の斷行——私はこれを喜ばざるを得ない。それは、温室の中に安眠を貪つてゐたわが産業に、茲に再建の機會を與へられたからである。しかるに政界或は財界各方面の解

禁に對する見解を見ると、無論これを歓迎はしてゐるが、しかも解禁後に對する再建意識が餘りに稀薄なのに驚かざるを得ない。

最近商工省も産業合理化を唱え出し、閣議も亦これを重要な政策の一として採り入れてゐるやうであるが、それは決して革命意識から出發した産業合理化論ではない。この革命意識を缺いた産業合理化論は、寧ろ田中義一の産業立國論より、多くの危険性を包蔵することを知らねばならぬ。何となれば田中前總理の産業立國論は、唯單なる口頭禪に止まり其内容は全くの空虚であつた。これを行ふ意志もなければ、何の見當さへもついてゐなかつた。けれど今、濱口内閣の云ふ産業合理化はそうでない。この産業合理化は濱口總理が唱えなくとも、依商相が默つてゐても、日本産業の現狀が必然的に産み出さねばならぬ過程にあるのだ。内閣が提唱するから起つてくるのでなく、日本産業の一切の現狀が必然これを招來するのだ。政治家及び政府の使命は、唯、これを如何に導き、積極的に如何に應用するかの一に存する。若しこれを無批判に、無修正に採用するとしたら、恰も狂人に村正を持たしたやうに、今日己に生活苦のドン底に沈吟する國民の九割以上を占むる無産階級の生活を、更に根底から脅かす結果が避け

難い。この恐る可き危険性を考慮することなしに、無批判に合唱するならば、結局日本産業の再建ではなく、反対に産業壊滅に向つて突進するものである。

### 三 國際經濟と日本

今更言ふまでもないが、日本は何故、金の輸出を實行したのであるか。むろんそれは國際貸借關係の悪化を恐れたからである。その後解禁論が屢々起つた。この解禁論は何のために起つたか。それは入超を恐れ、國際貸借の悪化を恐れたからだ。そこで今度の解禁断行は、同じく國際經濟戦に、取返のつかない遅れをとつたため、大勢に餘儀なくされた結果である。即ち國際貸借の悪化を恐れる原因が除去されたから解禁するのではない。逆にその根因には觸れずこれ以上の輸出禁止を續けることが出来なくなつた、云はゞ結果を處理したに過ぎない。解禁断行に當つて英米銀行團との諒解を必要としたのは、最も明かにこの事情を物語つて居る。つまり堪え難き國際經濟の壓力が、日本の金輸禁止の堤防を突破潰壊したのである。アメリカ繁榮經濟の日本侵入の勢が、嵐らしの如く海嘯の如しと形容したのは決して過言でない。

顧みれば、歐洲大戰後十數年、その間歐洲諸國の多くは政治革命を達成し、アメリカは經濟革命に成功した。ひとり日本は、この貴重なる十數年を無爲と絶食の惰眠に過して來たのである。その眠りを叩かれた日本は、今一足飛びに飯にありつかんとしてゐる。それも、オモムカラ粥、粥から飯の段階を跳躍して、長病ひの病人が正にコッ飯をパクつかんとしてゐる。産業合理化は日本にとつて明かにこのコッ飯に値する。このコッ飯を嚙みこなすために先決第一の條件は自己の健康を整調することである。一切の力を知り、一切の機關を健全な活動状態に導くことである。即ち認識革命が根本不可缺である。この認識革命なくして産業合理化を企てるならば、病患は突として重症化することを知らなければならぬ。私は茲に聲を大にして認識革命の不可避的理山を開陳し全國民の前に呼號せざるを得ない。

### 四 國防と國富

いま、倫敦では海軍々縮會議が開かれんとしてゐる。この會議で日本は英米の一〇に對する七割比率の海軍力を保有せんことを要求しつゝある。若しこの要求が容れられなかつたら、會議の決裂も敢て辭せないといふ背水の陣を布いて、悲愴な覺悟で日本全權は出發した。國民も亦この要求に對して正に國論的統一の支持を示してゐる。若しこの要求が破れるならば日本は

寧ろ開戦を辭せないといふ處に日本魂の嚴存を誇らんとしてゐる。

私は決してこの日本の七割要求を否定するものではない。國防上絶対に必要ならば飽迄これを支持するものである。けれども假りに日本の假想敵國である米國と日本との富の比率は一體どうなつてゐるか。一九二六年アメリカの國富は三千五百五十億弗、これを邦貨七千億圓と假定する。處で大正十三年内閣統計局の調査によると日本の國富は一千億圓である。即ち國富に於て日米兩國の比率は七に對する一である。國防は一〇に對する七でなければならぬといふのに、富の比率は一〇に對する一、四三の比率であるといふに至つてはテンでお話にならない。然るに日本の國富一千億圓は、これは本當の國富ではない。百萬圓の會社が財産が減つて五十萬圓になつて居てもやはり百萬圓として計算された國富である。空室のみのビルディングでも、何等の生産をしてゐない廢工場でも計上された數字である。故に七に對する一の比率は決して正しい比率ではない。完全な富の比率はこれを國民所得の比率に求めなければならぬ。一九二六年のアメリカの國民所得は九百億弗（邦貨一千八百億圓）であるが、同年度の日本の國民所得は百三十億である。この比率はアメリカの一〇に對して日本は〇、七となる。若し日

本がアメリカと經濟戰を武力的にやるとすると、この〇、七の力でアメリカの一〇の力に當らなければならぬ。この貧弱な經濟力を根底として一〇に對する七の國防をもたなければならぬといふのは實に驚くべき悩みである。

謂はゞ日本は頭があつて足の無いやうなものなのだ、脳味噌があつても胃袋が無いやうなものなのだ。一〇に對する七の比率を以て軍事的に對立しやうとしても、それは脳味噌だけで胃袋が無いから、先づ根本の胃袋をつくらなければ、脳味噌も働けないし、活動も出來ない。従つて國防は無いと云ひ得る。胃袋をつくる問題、即ち産業再建の問題、これが國防の根本問題でなければならぬ。日本人が海軍比率の問題で國運を賭そうとする愛國的熱情、それは涙ぐまじき感激をもつ。しかし、それに幾倍した熱情をもつて日本は今、産業革命を斷行しなければならぬ。産業新革命の初陣に立たなければならぬ。

## 第二 アリメカの繁榮經濟

### 一 アメリカ繁榮の由來

アメリカの經濟力、或はその繁榮ぶりは、大體その國富又は國民所得に見て明かだが、茲に

考へなければならぬのは、この巨大な富がどうして蓄積されたかの點に在る。一言にしてこれを云へば、それは即ち産業合理化の所産なのだ。世界大戰開戦の當時、アメリカは實に五十億弗の債務國であつた。それが、一九一四年より一九二七年に至る十四年間に、開戦前の五十億弗の債務を返済し、一躍して對外債權百十六億弗を保有する世界第一の債權國となつた。又、同期間に、日本では十六億圓の損をしたのだが、アメリカ貿易の輸出超過額は實に二百四十三億弗に及び、今や全世界の金保有高九十七億弗の四八パーセントをアメリカが保有するに至つた。その對外投資は英國の五倍で現在九十九億弗餘に達してゐる。このアメリカに對して現在の歐洲諸國は悉くその債務國であり、その田舎となつて、アメリカは單り世界の都會的地位を獲得し地上に嘗つて見ない型破りの繁榮經濟を確立した。

そのアメリカは自動車に於て全世界の八割、電話に於て全世界の六割を所有し、しかも人口は全世界の二十分の一に過ぎない。年々數億弗の金をバラ撒きつゝ全世界漫遊の途を辿るアメリカ人は數十萬人に及んでゐる。地球始まつて以來、人類文化史上に未曾有な豪遊ぶりだと云はねばならぬ。この經濟的地上王國の建設の前に、日本の富の程度などは全く別世界で、テン

デ比べられたものでない。

この巨大な富はどうして蓄積したか。世界大戰當時、アメリカは空前の變態景氣を現出した處が大戦が終熄すると一朝にして恐るべき反動に襲はれたのである。

その時、遽然として登場した役者にフーヴァー、フォードの如き人物があつた。いま、アメリカでは生産過程の浪費無駄のために年々八十億弗づゝ損失してゐると叫んで、この無駄を排除し、産業の振興を齎らすために所謂産業合理化を徹底的に實現しなければならぬと絶叫し、産業建直しの急先鋒となつて全米産業界を指導したのは實に當時の商務長官フーヴァーその人であつた。彼の主張の根底を爲す思想は、實にその人力説とも稱すべき哲學そのものであつた。彼は云ふ。アメリカはその天然資源に於て正に世界最大の惠澤をもつてゐる。しかし乍らこの資源は自然の成行きに任せては開發が出来ない。悉く人間の認識を加へ、人力を通して開發しなければならぬ。——この主張の實行は即ち大量生産である。テーラー教授の唱道した産業合理化の學説を街頭に持ち出し、實社會に活用した。そしてフーヴァーとフォードはその代表的人物であつた。



## 二 その産業合理化運動

かくてフーヴァーは、その商務長官在職の數年間に於て、アメリカ産業の全般に亘つて、標準化、單一化の一大研究を完成し、その研究は生産、販賣、宣傳、消費の一切の過程に及び、悉く一般の利用に任せた。即ち商務省は一大研究所であり、一大立案所であつた。その研究は主として生産の標準化と消費過程の單純化を目的とし、研究項目五百四十四種に及んだ。例へば道路補装の煉瓦は六六種を四種に、アスファルト八八種を九種に、ミルク瓶四七種を九種に自動車々輪一七五種を四種に、タイヤ二八七種を三二種に、一切の瓶二一〇種を二〇種に改めたといふやうに、標準化單純化を迅速大膽に研究實行し、民間を督勵してアメリカ産業の全分野をこの原則の下に統制してしまつた。その結果として又新しい機械が發明され、その適用によつて生産は茲に急角度的展開を以て廉價なる商品が大量に市場に送り出されることゝなつたのであつた。

かゝる關係はチェーン・ストアの急激なる發展等に就て最も明瞭に觀察される。一切の生産が大量的となりこれに適應するものが愈々繁榮し、反するものは自然に淘汰され、健全なるものゝ合同が促進される結果、その合同によりて益々その基礎を確め、事業が大となり、基礎が確立すればする程、更に大量低廉の生産を可能にし、大量低廉の生産は更に大衆を吸引して循環的に過速度的に繁榮の一路を進展するのである。

茲に事業の繁榮は當然に又労働者の賃金を増加させる結果、労働者の生活は一般に向上し、その購買力は異常に増大した。これが直ちに消費力となり、再び生産を刺激し、更に生産を刺激して、繁榮經濟の原動力となる。労働資本家とも云ふべき特殊なる賃銀階級の出現と自動車王フォードの事業とは、正にこの米國繁榮經濟の代表的存在である。

## 三 經濟革命の自働的達成

過般、アメリカに財界の小反動起つたとき、フーヴァーは直ちに白堊館に金融界、商工界、農業界各方面の代表的人物を召集して、アメリカの繁榮對策を協議した。アメリカでは官民は二ならずして、一である。フーヴァーは役人ではなく産業指導の技師であり、産業繁榮の技術長官である。この官民一團となつてやる處にアメリカ繁榮の導因があるが、その協議會に出席したフォードは、労働者の賃銀値下げを相談しそうなその會合で、反對に値上げを宣言した。

茲に圖るべからざる經濟力と繁榮の大原因のあることを見なければならぬ。

しかもこのアメリカ繁榮の原因は、ひとりフーヴァーとフォードの二人の存在のみではない。フーヴァーが商務長官として産業再建の慈母的大活躍をしてゐた當時は、民間にも約五〇〇の科學研究所があり、フォードはその總帥的立場に在つた。しかも民間にはフォード一人でなくあらゆる企業家、實業家は皆、中フォードであり、小フォードであつた。

この國民的産業合理化熱の起つたアメリカは、歐洲各國が何れも政治革命熱に浮かされてゐる間に、ひとり經濟革命の實現に努力し、驚く可き今日の繁榮を築き上げることに成功したのだが、その全體の運動、國民的努力の背後に弗の哲學が有力なる指導力を持つてゐたことを見通してはならない。

#### 四 アメリカ魂の正體

茲に考へ出されるのはウィリアム・ジェームズのプラグマテズムだと思ふ。この實用主義の哲學は進化論すら訂正しやうとした。この哲學の究極する處は人道主義と合致して了ふ。哲學の無い功利主義は遂に單なる功利に終るが、哲學を根底とする功利主義は、その徹底する處、

宗教とも人道とも一致して了ふ、つまり他を倒すといふことは自分が倒される原因を與へるものである。故に他を榮えしむることは、延ひて自分の榮へる原因となる。従つて自分が富まうとするならば先づ他を富ましめねばならぬといふ打算から出て來る。この打算が、つまりアメリカの繁榮經濟を産み出したのだ。産業合理化の本質から云へば、それは人道主義でも奉仕主義でもない。一企業單位の營利の追求の結果として生じたる産業經營の能率化、これが産業合理化である。これを理論的に云へば營利の追求を目的とする能率化運動たるに過ぎない。けれどもこの産業合理化の武器を、徹底せる哲學で使つた點に於てアメリカは可成な勝利者だと云へ得る。

更にアメリカ魂には、ワシントンの獨立宣言、リンコルンの奴隸解放に見はれたる傳統的豪放な思想の活躍があつて、しかも歴史的な傳統的な因襲惡をもたない。全米國の地方都市で七十年以上の歴史をもつものが無いといふことは、自由豪放な思想に飛躍し因襲惡から解放されてゐる所以だ。征服者、開拓者としての血脈は、輕快豪放に全米國人の體内に流れ傳はつてゐる。又、宗教觀念の訓練が、繁榮經濟の一つの原動力として作用しつゝある。日本の宗教は、神

官僧侶數十萬に及んでゐるが、それは殆んど精神的に死滅してゐる。しかしアメリカでは、たとへ偽善的にもせよ、宗教の感化が常識化して、日々の生活に深く働いてゐる。相互的に富むことを主眼とする繁榮經濟の一因として、基督教的常識が有力なる役目を演じてゐることは見逃すことが出来ない。

### 第三 日本産業の老衰

#### 一 日米經濟力の對照

アメリカの繁榮經濟そのものに關しては、上來記載した處でその概略を諒解して貰へると思ふ。然らばこの繁榮經濟を向ふに廻しての日本産業再建の手立は一體どうしたらいいか。又、どうしなければならぬか。

産業合理化の實現はアメリカを年々八十億弗の生産過程に於ける一切の無駄から救ひ出したそれは筈ならずしてアメリカ經濟を世界無双の王座に位させる偉大な原動力であつた。一九二六年度の國民所得九百億弗といふ實に無鐵砲な繁榮が實現した。そこで若し日本が一人當り

アメリカと同率の國民所得があるとすれば、アメリカ人口一億一千三百萬人に對する九百億弗(一千八百萬億圓)は、日本内地人口六千萬人に對して九百五十六億圓となるわけである。ところが、日本の事實上の國民所得は僅かに百三十億圓だから、全體として日本の國民所得そのものは、アメリカの率からすれば、尙八百二十六億圓足りないのだ。即ちアメリカの所得率からすれば、日本はプラスの一に對してマイナスの七といふ恐るべき貧弱な所得率しかないのである。この關係を別語すれば、若しこのマイナスを取返せばその瞬間に日本の國民所得は八百二十六億萬圓を増大して百三十億圓より一躍九百五十六億圓になるのである。これを逆に云へば、日本の産業は一年に八百二十六億圓の無生産浪費をやつて居るわけである。八百二十六億圓の無生産浪費——この數字は産業再建の門出に當つて忘れてはならない數字である。

#### 二 國內的事情の行詰

日本人はアメリカ人が十杯喰ふ飯を一杯食べて生きてゐられる譯ではない。普通の食事に於て平生經驗する通り、日本人もアメリカ人もその食量には大差がない。故にアメリカ人が一の働をすれば日本人も亦一の働をしなければならぬ。況んや生活資源に乏しい點、國防の劣弱な

點、東洋の事實上の盟主である點、又人口激増の國內的事情等あらゆる點から考へて、日本人は寧ろアメリカ人の一に對する十の働をしなければならぬ運命にある。しかるにアメリカに比して一ヶ年八百二十六億圓の無生産浪費をやつて居るとは何たる絶大な矛盾でせうか。

超數的な絶大な無生産……それは明かに日本産業の不振老衰を物語るのである。假りに、アメリカの繁榮と比較せずに、國內的事情のみの上から見ても、日本産業の老衰は最早詳述を要しない。先づこの不景氣の結果、日本人の經濟生活は現に三割方の減退を示してゐるのは明かである。製造家も地主も商人も、小作者もその収入は押しなべて三割方の減少を來してゐる。この事實を假に人口關係から説明すれば、日本は現に六千萬の人口をもつてゐ乍ら、その生産力は三割を減じてゐるから四千二百萬人を養ふに足る生産力しかない。即ち日本は四千二百萬人の經濟力で六千萬人を養つてゐるのである。これが明かな生活のマイナスでなくて何でせうか。しかも人間は食ふて生きて行かねばならぬ。マイナスの生活がどうして續けてゐられるかといふに、それは要するに過去の蓄積の喰ひ潰しをしてゐるに外ならない。即ち歐州大戰當時の變態的好景氣によつて獲得し、蓄積した、僅かばかりのヘソ繰りを、大がかりで喰れつぶしの

來たに過ぎない。しかもその蓄積も今や正に喰ひ盡されんとしてゐるのだ。

かゝる觀點からすれば、茲に輸入超過などの累計をもくしくひつぱり出さなくても、日本産業の衰退は論ずる餘地のないほど明白な事實である。日本は今、朝野を擧げて失業問題が呼ばれてゐるが、已に六千萬人の三割、即ち一千八百萬人が失業してゐる譯である。失業對策が如何に論じられても、職業紹介所の數を幾百幾千増加しても、この偉大な失業者を收容しきれぬものでない。こゝにいふ點から眺めると、日本の文明は、その全面が失業状態にあると云はざるを得ない。

### 三 全面的失業文明

例へば茲に丸ビルがある。三萬人の人々が毎日出入してゐると云ふ。一體あの中で何をやってゐるでせうか。無論斷定的に言へぬにせよ、要するに彼等は空から空に踊つてゐる人々でないでせうか。それは明かに疲勞の一群である。あの丸ビルの中から何を生み出してゐるか。米俵も出なければ唐茄子も出ない。それは巧智と奸策の試合による文明の亂舞でないでせうか。ラヂオ會社が儲つてゐるといふが、一體ラヂオによつて何を産み出してゐるのか。今は映畫の

時代だ。スターの時代だ。この映畫、このスターは生産とどんな關係に在る？ 野球の時代だ一枚の入場券を手にせんと殺到する群衆によつて怪我人が生じてゐる。これと産業とどんな關係があるか。更に數年以前から東京には女給と呼ぶ新進粉白女が登場した。その數は實に警視廳管内だけで二萬を越へてゐるが、これは從來の藝者、料理屋女などの代りに出現した譯でなく、そうした在來女も増加しつゝあるのに、更に新たに發生した一群である。洋酒と脂粉の渦から生ずるジャズの文明がそれを取巻いてゐるのだ。警視廳には一萬三千の警官がゐる。しかもこれを交通取締の點からするも、風紀、衛生、火防、刑事、何れの點からするもそれだけの警官では足らなく行詰りの形となつた。浪費取締りのために、警官を増さねばならぬと云ふ處に、大きな浪費の上ぬりがあるではないか。

東京市、府、警視廳を合せて六萬二千人、軍人、各省官吏傭人、官廳御用商人、請負人、それを相手とする小賣商人等を合せると數十萬人以上になる。これに家族四人宛を加へると二百數十萬人となる。東京府下の人口は、中央費及び地方費の豫算をめぐつて生活する人々によつてその大半を占めて居るのだ。明かに東京府下の人口の半數以上は産業と直接關係をもたない

といふことになる。産業と縁の遠い人々によつて經營される文明は、その全面が失業的狀態に在ることを物語つてゐる。

野球に熱中するのも、競馬に夢中になるのも、ラヂオに陶醉するのも、理由をつければ必ず理窟があるに相違ない。しかしこれを産業再建の革命意識から眺めると、文明そのものが生産とかけ離れた浪費的方向に根深く釘付けされてゐることを思はざるを得ない。茲に日本産業の驚くべき老衰が考へられると同時に、産業革命の必要が如何に切實に迫つてゐるかを認識せざるを得ない。

#### 四 産業老衰の根本原因

然らば、日本の産業は何故かくの如き見すばらしい姿に迄落ぶれたであらうか。これを究明しなければ産業革命の意識が確立されない。

徳川幕府の没落は、直ちに産業文化の分娩ではあつた。故に明治政府の樹立と同時に、産業文化の蕾が破れて次第に花は咲いた。しかし、日本に於ける産業文化の誕生は、英國に於ける機械の發明によつて生じた産業革命とはその様式を別にし、日本の革命は政治革命であつた。

故に日本の産業の振興は政治の發達と附隨して發達した。即ち三井三菱といふ財閥の誕生は、政治といふ翅の中に抱かれて産み、孵し、育て上げられたのである。いま、三井、三菱は日本財閥の双壁として日本財界の支配力をもつてゐるが、それは二つながら政治が財閥の影法師であり、財閥が政治の影法師として相互的にその地位を保つてゐるに過ぎない。故に今の産業の老衰は政治に育まれて發達して來た産業振興過程の老衰である。言葉を換へて云へば、日本の産業は政府の保護救済政策によつて發達して來た。その發達過程をもつ産業の老衰は、政治の老衰と借老同穴の關係にあり、又保護、救済政策の破産を如實に物語るものである。

いま、日本で、政府から民間に直接補助してゐる金の年額は二億圓に達してゐる。その數字は極めて複雑で、完全な統計が取りにくい状態に在るが、大體二億圓に達することは確實である。けれども、その二億圓のうちには、社會事業其他直接産業と見られない性質の補助金もあるが、それを控除しても一億五六千萬圓にはなる。國民の膏血による豫算から、年々これだけの金額が、各種産業の補助保護の名に於て支辨されてゐるのである。實に、日本の産業には補助保護を受けない産業が絶無だと云つても過言でない。製鐵、製鋼、船舶、運輸、石炭、石油

蠶絲、紡績、羊毛、肥料、染料、砂糖、海運、鐵道、一切合切、どんな事業でも直接の補助金を受けるか、然らずんば間接に關稅によつて保護を受けてゐるのだ。

### 五 保護政策の破産

曩に金の輸出を禁止したのも、今又その禁輸を解除したのも、歸する處はこの保護政策の然らしむる處に外ならない。この鎖國主義的保護政策の結果は、國際市場の喪失となつて現れた恰も麻醉劑によつて昏睡したやうに、その保護政策の温室内に安眠してゐた我産業界は、一切の意味に於て世界の經濟的戰場に於て遅れをとつてしまつたのだ。一にも保護、二にも保護、三にも保護といふ恐るべき依赖性を第二の天性としてしまつた我産業界に、獨創的研究と、積極的戰闘意識が地を拂つて片影を留めないのは敢て不思議ではないのだ。事業界の空氣は一にも政府、二にも政府、唯々、政府にすがつてその掩護を得ることを能事とする風潮は、極端に發展して遂に補助金目當の事業會社をさへ發生せしむる結果を産んだ。そこに所謂利權運動が熾烈となり、政治家と偽非實業家との結托を産み、政界腐敗の一大禍因を醸成したことは歴々として枚擧に遑ない事實である。産業自治に基く、獨創的な戰闘的な放資も企業もなく、依頼

心萬能からくる利権運動、即ち贈賄は彼等の資本となり、彼等の企業となつた。現に天下の耳目を聳動せしめつゝある疑獄事件の一つ／＼を點檢せよ。そこに發見されるものは一體何であらうか。

### 六 資金の富豪集中

更に日本産業を今日の衰退に導いた有力なる一毒素は、日本資本家の封建的根性である。それは封建的資本家意識である。政治的には官僚意識となつて、長く我が政界を風靡した我國の封建的大名意識は、經濟界、産業界に於てはこの封建的資本家意識となつて我産業の發達を阻害した。

織田信長は侍女三百を擁して逸樂を逞ふしたと傳へられるが、日本の事業家は少しでも成功すれば直ちに堂々たる大邸宅を廻ぐらし、多數の侍女を側にして筥棒に偉いものになつて納まつて了ふ。大小の差はあつても、彼等は明かに信長的大名意識を相續してゐるのだ。

この大名意識も單にそれだけに止るなら或は大した問題ではないかも知れない。しかし茲に默し難いのは、かゝる資本家の意識は窮局に於て恐るべき惡果をわが産業界に齎らしてしまつ

たのだ。それは何であるか。資金の富豪集中と資産の死蔵——即ちこれである。

例へば私の郷里である福島縣では、縣下經濟の收支に於て年々、四千萬圓の金が縣外に移出されてゐる。僅かに百二十萬人の一縣に於て、五年も前から繼續してこの移出超過が起つてゐる。故に、今縣下の金額は必然的に枯渴し、その結果、縣下四十に餘る地方銀行の約三分の二以上は最近に於て破産の悲運を避け得なかつた。勿論その責は銀行家側にも輕からぬにもせよ、要するに年々四十萬圓に餘る大金を中央の大資本に吸引された結果の貧血症であることは争はれない。

かゝる關係はひとり、福島縣に限つた現象ではなく、全國大多數の府縣は皆、中央の偉大な資本的吸血鬼——大金融資本家によつて晝夜の間斷なく無限に吸引されつゝある。鐵道、電信其他一切の文化交通の機關はこの吸血鬼が地方を搾取する恐るべき吸血管に過ぎない。若し福島縣並に他の府縣が縣外に即ち中央に資金を移出せしめつゝありとすれば中央の大資本家は年々約二十億圓の資本を地方より搾取しつゝあるのだ。農村疲弊の聲を聞くこと久しいが誠に理由あるかたと云はざるを得ない。





この外に地方公共團體の恩給を入れると數十萬人の人員で一億八千萬圓に達する。その一億八千萬圓は悉く國民の負擔する税金であると同時に、その金を支給される數十萬人の人々は金を貰つてゐるために働かないといふことになる。鐵砲うちや魚釣を仕事として遊んで暮らしてゐるこの偉大な浪費、産業と關係ないばかりでなく産業の發達を妨げてゐる。この浪費を何と見るか。

政治のかゝる巨大な浪費、實に大がゝりな豫算生活をやつてゐるが、一體、この人々の働きがどれだけ産業を助けてゐるか。或は産業と分離してゐるかを見る一例として、茲に農政を吟味して見たい。

農政は云ふ迄もなく、土地から生産を計ることだ。その生産を増そうとするのが農政の根本目的である。しかるに明治以來日本の農産物はどれだけ増加してゐるでせうか。不幸にして徳川時代に比し、決して大した増加を見せてゐないのは事實だ。しかも徳川時代には農林省は無かつた。今は農林省あり、農科大學あり、各縣に農政課あり、縣立農學校あり、農會あり、農學博士あり、農學士あり、農事試驗場あり、又農政に關する新聞あり、雜誌あり、その施設、

その機關、缺ける處がない。そして中央及地方その他民間の農會等全部合せて農政のために年々消費される金額は優に一億圓を突破し、その外に肥料に數億圓を投じてゐる。徳川時代には肥料代はいらなかつた。人糞と草で肥料は足りたのである。しかるにこの大がゝりな投資によつて農業生産はどれだけ増したか。米に就て云へば一反歩僅かに半俵を出ない。鐵道が、明治五年に初めて敷かれてから一萬哩に延長したことを當局は誇つてゐるが、若しこの率で行つたら日本全體の農産は徳川時代に比して百倍位になつてゐなければならぬ。然るに殆んど大差ないばかりでなく、年に二億圓位の食料品が輸入され、尙二百萬町歩以上の未開墾地が残されてゐる。日本現在の耕地面積は六百三十萬坪であつて、その三分一に當る土地が、未開墾のままに放任され、一粒の米も一握の麥も穫らずに放擲されてゐる。ソナ農政があるでせうか。日本の農政は明かに一ヶの喜劇に過ぎない。

### 八 支那問題の眞意義

私の産業再建論の中に支那問題が這入るのは、不思議に考へるかも知れない。しかるに日本産業の振興と支那問題とは切り離すことが出来ない。支那には四億の民が居る。それは悉く消

費者であり、華客である。假に一人で一年一圓宛日本品の購買力がありとすれば、一年に四億圓の貿易がある譯である。それが外交の失敗によつて殆んど問題にならない。それは政治家の思想的錯覺と日本事業家の思想的錯覺が齎らした結果だ。即ち封建的思想意識から來る結果である。外交的に云へば侵略主義的外交から來る反動、經濟的には地方搾取を職とする封建的資本家意識から來る反動が、對支貿易の不振途絶となり、日本産業の老衰を招ぐ一大根因となつた故に日本産業の再建には日支關係の一新といふことが重要な意義をもつてゐることを忘れてはならない。

結局、日本産業老衰の三大原因として私は第一に保護政策の失敗、第二に封建的資本家意識による資金の富豪集中、第三に政治の一大浪費化に基づく産業界への重壓が最大原因だと思ふこれを一括して考へて見ると、要するに官僚思想の一點に歸すると思ふ。保護政策の失敗も資本の集中も、政治の浪費化も、その根原は官僚思想から出發して居る。この思想の根本的打開即ち認識革命から來るのでなければ、日本産業の健全なる再建は期待することが出来ない。

## 第四 産業再建論

### 一 認識革命の熱求

上來説き來つた處によつて明かなる如く、いまや我が國の實情は、その生活の根源より一大再整頓を加へるでなければ救ふことの出来ない奈落境に深く陥つてゐる。しかも國民生活はこの窮境否生活地獄のドン底より救出する唯一の手立ては産業再建を措いて他に何物もない。それは實に生活力の確立であり、經濟力の充實である。この根本的大事業を前にして國民は今や眞劍に思考し、眞劍に行動し、眞劍に努力して、この國民的大事業を完成しなければならぬ。いまは、そのドタン場に逢着してゐるのだ。

當面の一大國難、新産業革命を前にして政府も政界も民界も如何なる覺悟を把握してゐるか國民は黒船來とか、日露開戦とか肉眼的變事を見なければ多く無形の國難を思はない。其等の國難より、より多くの危険性を包蔵する新産業革命に對しては、寧ろ認識不足の實狀であることを痛感せずにはゐられない。アメリカの經濟革命を前にし、ロシア、ドイツ、イタリー其

他の政治革命を前にして、一體日本は何によつて此國際戦線に自己の立場を確立せんとするか。

日本は茲に産業再建の事業を完成しなければならないのは、産業再建は直ちに日本再建だからである。今にして日本を再建しなければ、國際的にも、國內的にも、日本は遂に立つ能はざる奈落境に打ち沈むであらう。進んで生きるか退いて死するかの問題は今の日本の國際的諸關係が命する唯一の命題だ。進まなければ必ず死んで了ふのだ。我等は進んで生きねばならない。それは日本現在の必然性だ。この必然性の上に立つて産業再建の指針は我々に何を命令しつゝあるでせうか。

我等は先づ、前提条件として自分自身を革命しなければならない。認識革命の煉獄を通さなければ新日本の建設は不可能なのだ。一切の文明に對し、政治に對し、經濟に對し、社會に對し、教育に對し、再考察再吟味、再認識の革命を経過しなければ、我等の國民的事業は絶対に出來ないのだ。若しこの認識に缺ける處があつたら、一切の努力は單なる老衰の引伸ばしに終始するだけのことだ。彈力ある本當の日本を建設しやうとすれば、先づ自己革命の認識から出

発しなければならない。

なぜ、日本は今日の老衰を來たしたか、即ち、その老衰の諸原因を一掃し、浪費的傳統を一擲し、封建的資本家意識を一蹴し、浪費の玉城たる官僚亡國の積弊を根元より掃滅せよ。一切の過去の浪費を放擲することが、それが直ちに日本再建である。一切の舊殻より蟬脱せよ。それが即ち新日本の分娩である。私は政治界も、實業界も、否、國民一般が先づこの認識革命の四字に更生することを熱求せざるを得ない。

## 二 資本家利得の低減

茲に重ねて産業合理化運動を見る。それは濱口首相すら己に叫んでゐる。勿論私は、たとへそれが不徹底なる意識の下に爲されつゝあるにせよ、不可避の問題であるが故に、これを是認せざるを得ない。けれども、單り首相のみではなく、日本の現在の財界支配者は悉く、その意識を履き違えてゐる。つまり、彼等は産業合理化によつて、唯々生産費の低下を經營の能率化を期待してゐるに過ぎない。こゝに恐るべき錯覺があるのだ。産業合理化の最も生命とする處は生産費の低減も勿論だが、資本家の収入に一大制肘を加へることにあるのだ。不當収入の徹底

的排除こそは、實に産業合理化の主題でなければならぬ。

現在、日本産業の老衰は、資金の富豪集中がその重要な原因なのだ。いま産業合理化を實行して生産費を低減し、資本家の収入に低減を行はなかつたら、今日以上の資本集中が行はれ國民の九割以上を占むる無産階級を更に今日よりもひどい苦境につき落とし、結局産業振興の代りに産業の滅亡を導くに至るものである。

最近、アメリカのホワイト・ハウスに於ける同國重要産業振興審議會の席上で、フォードのなした賃銀値上げの宣言こそは、産業合理化の眞髓であり、生命であるのだ。しかるに日本の政治家並に資本家は、この生命を棄て、その殻を眞似んとしてゐる。恐る可き錯誤と云はざるを得ない。

一體、金解禁は國民に消費節約を説いて、その土臺の上に實行したのだ。資本家の不始末剛愎から發生した産業衰退の尻ぬぐひは、結局無産階級の生活的負擔によつてなされたのである。解禁後の犠牲を更にこの無産者に強いることは單り本末顛倒であるばかりでなく、どの點から考慮しても許されない。一體、資本家こそは解禁によつて實は二重の利益を約束されてゐる。

る。物價下落による購買力の増大と、しかもその収益が確定的に保證されてゐるからだ。この資本家が産業再建の犠牲を負はないで、一體誰れが負ふべきだらうか。産業再建の犠牲を資本家が負擔する處に認識革命の基礎がある。そこに健全な日本再建の唯一の道が約束されてゐる。松永安左衛門氏が、産業改造の根本は國民協力が在ると云つた。むろんそうだ。國民協力無くして産業再建も産業改造も到底出來ない。しかるに、資本家の収入低減の犠牲を彼等が拂はないとすれば、資本家自らがこの協調を破壊するのだ。徒らに無産政黨の階級闘争を激成するに過ぎない。

階級闘争の激成は、資本家自らが協力を破壊する處から來てゐる。資本家が自己革命を行つて、自然の理論と人道に還元するならば、階級闘争は直ちに姿を消すであらう。然るに資本家自らが、自分は犠牲を拂はずに、國民にその負擔を強いるならば、階級闘争とその戦術は益々猛烈になるのだ。大きな眼から見れば、階級闘争運動も一種の浪費に過ぎない。闘争そのものの中から生産は無い。それは健全な社會建設の過程の運動であらうが、闘争の中に決して生産は無い。故に闘争も一種の浪費に過ぎない。この闘争を消滅せしめるには資本家の認識革命が

先だ。恐らくこの問題が、産業再建が成功するか、暗礁に乗上げるかの分れ目だと考へる。

資本家の収入低減は、資本家の不利益を來すものではない。資本家の不當利得を労働者の賃銀に振り向ける。それが直ちに購買力となる。單に浪費力たる資本家の不當利得が労働者の健全な購買力となるばかりではない。この購買力は結局消費力だ。消費力の増大は直接的に生産を刺激して産業繁榮の根本動力となる。國民の九割以上は無産階級なのだ。この無産階級の購買力を増すことは、産業合理化の眼目でなければならぬ。無産階級の購買力の掠奪は産業老衰の根原であつた。産業老衰、それは資本家の身にとつて第一ソロバンに乗らない筈だ。そこに眼覚めない事業家は實に大馬鹿ものだと言はざるを得ない。収入低減は資本家を繁榮せしむる根原である。労働運動者諸君には嫌はれるか知れないが、これが新時代の商賣繁昌の根本策であることは明かだ。彼等資本家は無産者運動を蛇蝎の如く嫌ひ、思想問題を惡魔のやうに恐れる。しかも自分等は本末を誤つた錯覺の上に立つて、如上の火の如く明白な理論を知らないのだ。その錯覺を清算するでなければ、資本家は遂に自分自身を救ふことが出来ない。

### 三 政治の合理化

今の政治は一體どんな政治か、官吏軍人に俸給を拂ふのと、恩給を拂ふのと、富豪財閥に補助金を出すのが政治の全體だ。それを差引けば、政治の姿はなくなり、只泥試合と、選挙さわぎが残るだけだ。絶大な浪費の王城を爲してゐる政治——政治の重荷——これをこのまゝにしては産業再建は出来ない。産業再建途上に於ける前衛的大改革のメスは政治合理化の問題である。勿論これは現内閣に望めることではないが、政治合理化の根本は、現在の各省分立を改革して中央政廳を一つにするといふ位の意識を要する。軍備縮小とか、官公吏半減とか、行財政の整理改革とかいふ位の従来ありふれた意識ではまだ足りない。帝國政廳を一つにして先づ政治の單一化、標準化を執行しなければならぬ。各省は各部にして一つの建物に統一し、官僚氣分を一掃して、何よりも行政の街頭化を行ふの意識を先決とする。

日本に於ける保護政策は明かに破産した。破産せる保護政策を完全に放棄せよ。産業發達過程に於ける保護貿易は勿論肯定するが、而も原則は自由貿易であらねばならない。保護政策はなければならぬが、保護意識を改めなければならぬ。本来なら産業再建は産業の國家管理であるべきなのだ。労働者に對する資本家の搾取を不能ならしめる經濟組織は、産業の國家管

理である。これが今すぐ出来ないから、役人がそのつもりで補はなければならない。假りに今の農林省、商工省の如きは一大研究室であり、一大立案所でなければならない。例へば船舶運輸を合理化しやうとする。商工省で立案して船會社に強制的にこれを行はしめる。産業は人にやらせてゐるのでなしに、自分が行つてゐるのだといふ心持、その心持の下に、一切の事業家が悦服する状態を體現しなければならぬ。且那樣が召使に對して御褒美を出すやうな、放蕩息子に放蕩資金を投り出すやうな意識の保護政策は明かに破産したのだ。

又、蠶絲問題がある。蠶絲問題のために蠶絲局がある。けれども蠶絲問題は永久に解決されない。全國二百萬の養蠶家は絲價の不安定と不採算のために悲境に陥つて居り、三千の製絲家は、將に倒産的狀態に沈淪して、始んどこれに金を貸すものすらない。けれども貿易業者は毎年四五千萬圓の利益を見てゐる。養蠶家及製絲家は貿易業者の金儲けの材料であるに過ぎない。貿易業者は紐育に代理を置いて、盛んにこれと偽電を往復し、相場を上げて儲ければ、下げて儲かる仕組にして居るのだ。即ち絲價を極端な不安定状態に置くことが彼等の金儲けの手段だ。この手段は、かくて大衆の血を吸ひ、骨をシャブリつゝ、わが蠶絲業界を破産の淵

に陥れてゐるのだ。過去十數年に亘つて蠶絲界のために、國家は多大なる救済を與へた。けれどもそれは燒石に水だ。何億の金を注いでも、現在のこの制度を根本的に改めない限り、蠶絲界は復活しない。

養蠶家は製絲家の繭を一錢でも高く賣りたい立場に置かれ、製絲家は一錢でも安く買ひたい立場に居る。その製絲家と貿易業者は又、全く相反する利害の立場に立つてゐるのだ。この相反する利害の對立を土臺とする消費過程、これを單純化して大改革を斷行しなければ、わが輸出貿易の大宗である蠶絲問題は闇だ。二百萬大衆は永久に生殺した。この場合に大膽な立案をするのが役人の仕事でなければならない。

高知縣下に起つた機船底曳網反對事件のやうな問題を起さずに、二百萬大衆を土臺にして、製絲家を賃引き業者に改め、貿易業者を半官半民の委託販賣業者にする。といふやうに、消費過程の單純化、これが直ちに斷行せねばならぬ問題である。今迄の農林當局は眠つてをつたに過ぎない。

むろん、我々の翹望するやうな政治の合理化は、今の政府に出来ないであらう。しかし、そ

れにしても餘程思ひ切つた改革を斷行するものでなければ、産業合理化は現實しないと叫ばざるを得ない。

#### 四 創業的大企業計劃

濱口首相は解禁後に於ける五大政策を述べて、一、産業合理化。二、能率増進。三、國産奨勵。四、國際貸借の改善。五、交通政策の改善。といふ五項を掲げてゐるが、その悉くが既存のものに對する整理の範圍を出ない。古い車に油を注そうとするに過ぎない。新しい車を仕掛けやうとするものがない。然らば既存のものに對する整理だけをして行けば、日本の産業はどうなるか。

産業合理化といふ一大機械を据斥けて、現状のまゝの、即ち既存のわが産業界に臨んだならば、何よりも先に現在の勞働者は確かに半分で足りることとなる。アトの半分をどうするか、如何に失業救済の百憂侘羅を唱えても、救済の出来る筈がない。失業對策は、失業對策を考へては駄目だ。失業對策は事業の創設である。即ち創業的大企業計劃の敢行である。それは結果として失業者を自然に吸収するので。

産業合理化による産業再建を熱望し、そして失業對策を眞剣に考へるなれば創業的大企業計劃を敢行するより外に途は莫い。問題はアメリカ繁榮經濟の對立的要素を備へなければ産業再建にはならない。失業大群の簇出の國內的事情の上から云つても、既存の産業をシャブつてを つたのでは、再建どころでなく、却つて逆行する結果を産むのは自明だ。茲に大きな意識の革命が要求されてゐるのだ。

普通人は必ず空論と思ふだらうが、それは傳統の支配を脱しきれない頭だ。その傳統から蟬脱したときに、ソコに、大企業計劃の創設に眼覺めなければならぬ。言葉を換へて云へば、日本の再建も産業の再建も、大企業の誕生であるのだ。それは小企業でなく、大企業であるのだ。

日本は天恵に恵まれてゐない。天恵が豊かでないから大企業計劃を樹てねばならぬ。これを食糧問題からするも、日本は年々二億圓宛海外から食糧を買つてゐる。これを自給する。大企業計劃を樹てなければならぬ。二百萬町歩の荒野を開かねばならぬ。これを水産に見ても輸出は僅かに八千萬圓だが、専門家の研究によれば、三億の輸出を可能ならしめる魚族が全

日本を取巻いてゐる。一大富源だ。一大天恵だ。それは生産せざるのが罪惡なのだ。社會政策審議會の報告に據れば、日本には今、三十萬人の失業者があると云ふが、茲に水産輸出三億圓の計畫を立てたら、三十萬人を向けても尙足りない。

更に衣料の問題にしても、動物園の綿羊はムク／＼と毛が生えてゐる。各地農場で試育してゐる。羊も皆裸ではない、必ず日本特有の羊毛は出来る筈だ。國營でも半宮半民の牧場でもいい、この方面に又、大企業計劃の出来ない筈はない。銅、鐵其他の鑛物にしても、無限の寶庫が地下に埋藏されてある。これを生産しないのは資本家及び政府の怠慢である、或は日本に材料のないものでも、海外に原料を求めて加工して、更に海外に送り出す大企業計劃が行はれなかつたなら、何が故に日本は支那問題、滿蒙問題、シベリア問題を叫んでゐるのだ。日支問題の解決は日本政治家の認識の革命によつて、一日か半日で出来ることだ。政治家及び國民の認識革命によつて、商工立國の方策は直ちに實現される。それが出来ないのは政治家及び國民の大きな不作爲犯であらねばならない。

或は日本は特殊國だから世界並には出来ないと言ふかも知れない。特殊國なら特殊の産業が

出来る。合理化の遂行によつて農村の勞働者が半減されるとすれば、直ちに其處に農工並用主義を斷行すればよい。屋內的工業の發明とか、普及が不可能である筈がない。

これより以外には生きる方法が無いといふことになれば、そこには必ず立策がある。鰯が、水が無くなれば田の泥の中にもぐつて生きてゐると同じやうに、そこにはこれ以外に生きる道がないとすれば、必ず立策がある。この意識に徹底するなら、いまや大企業を創設しなければならぬ。

##### 五 企業不安の一掃

こゝまで論ずればもう論ずるまでもないやうだが、實現に當つて第一に執らなければならぬ手段は、企業不安を一掃して、資金の流動化を圓滑自在ならしめなければならぬことだ。資金は富豪の手中に死藏されてゐる。日本は貧乏なりと雖も、昭和二年度に於ける死藏資金の總額は三百億圓を突破してゐる。それが多少減つて二百億圓であつたにしろ、それだけの資金が死藏されてゐるから、事業が起らない。金解禁を行つた列國の例から見ても、資金の流動化を行つた國のみが打撃が少い。



この資金の流動化を計らないでは産業振興は絶対に出来ない。この資金の流動化を実現するには、先づ企業不安の一掃を實現しなければ駄目だ。それは現在の資本家や政治家に一任してゐては絶対に出来ない。濱口首相はアメリカの例に倣つて、事業の合同を叫んでゐる。こんな合同は、放つておいても、ひとり手に出来る。しかし乍ら出来ないのは企業不安の一掃だ。現在では資金の流動化を計らうとしても、企業不安がこれを梗塞してしまつてゐる。若し民間に於て企業能力が無いとするならば、地方公共團體の公營を斷行してもよい。産業の國家管理が一體理想なのだ、民間に企業力が無いなら、公共團體の企業は理想の實現だ。

各府縣が銀行の縣營、保險の縣營、肥料の縣營、これを斷行して差支ないではないか。そうすれば金融の流動化、即ち金融の地方分權が行はれる。そして中央銀行を純乎たる國立とし、現在の如く、半面の營利を指針として金融界に臨むの弊を矯め、その統制は専ら金融の社會化、産業の社會化を指導する統帥機關たらしめなくてはならない。

之を要するに、以上縷述して來た題目の徹底的鍛冶を経た確乎たる認識に缺けるならば、それは眞實なる産業再建に値しないのである。

## 六 結 語

以上の論は素人の論に過ぎない。併し乍ら私は所謂玄人論に服従することは出来ない。支那通たちが、支那問題を悪化させたやうに、日本の經濟通は、日本の産業を誤つてゐると考へる。私はそれに盲従することが出来ない。(完)

326  
390

昭和四年十二月五日印刷  
昭和四年十二月十二日發行

【定價金貳拾錢】

著者 山田忠正

印刷者 本間十三郎

印刷所 清揚社

發行所

大衆自治社

麴町區内幸町一ノ三幸ビル二階  
銀座(57)四八四九番

終

